

日本地域学会ニューズレター

平成 21 年 no.2

平成 21 年 8 月 10 日

目 次

I.	日本地域学会第 46 回年次大会 (平成 21 年 10 月 10 日-12 日) 参加登録について	... 2
II.	平成 21 年度日本地域学会総会 (平成 20 年 10 月 11 日) 出席のお願い	... 2
III.	理事会報告 平成 21 年度 第 1 回～第 4 回理事会	... 3
IV.	委員会報告 1. 学会賞選考委員会報告 日本地域学会学会賞授賞者の決定 2. 機関誌編集委員会報告 機関誌編集委員会 第 22 回～第 24 回の報告	... 4
V.	機関誌配布ルールの変更について	... 5
VI.	会員通信 ＜海外滞在記＞および＜研究室便り＞北海学園大学・鈴木聡士准教授	... 6
	第 46 回年次大会準備委員会からのお知らせ 会場付近図, 交通手段, 等	... 8

I. 日本地域学会第46回年次大会 (平成21年10月10日-12日)

平成21年度(2009年度)日本地域学会第46回年次大会(実行委員長 戸田 常一 広島大学大学院教授)が、下記要領で開催されます。積極的にご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

開催日: 2009年10月10日(土)-12日(月)

開催校: 広島大学

会場: 東広島キャンパス法学部・経済学部講義棟

大会準備委員長: 戸田 常一 (広島大学大学院教授)

〃 副委員長: 岡村 誠 (広島大学大学院教授)

主要プログラム: 学術セッション, 総会及び学会賞授与式, 公開シンポジウム“中国山地から日本を考える -中国地方の中山間地域で活躍する女性たちの提言-”, 懇親会
申込み方法: 同封の返信用ハガキでお申し込み下さい。
座長, 発表者, 討論者を含め全ての参加者に申込みが必要です。なお, 総会(11日13:00~)を欠席される場合は, 委任状欄の記入もお願い致します。

参加費:	一般会員	3,000円
	大学院生会員	2,000円
	非会員	10,000円
(公開シンポジウムのみ参加は無料)		
懇親会費(参加者のみ):		
	一般会員・非会員	4,000円
	大学院生	2,000円

注意事項:

1. 最新のプログラムは以下の日本地域学会HP(以下, 学会HP)にて公表する予定です。

http://jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp/index_jap.html

2. 発表予定稿が提出されたものについては, 学会HPから事前にダウンロードできるようにする予定です。

3. 大会準備委員会としてホテルの手配はしていません。別掲の会場周辺ホテル一覧などを参考に各自でご予約いただきますようお願い致します。

4. 期間中は大学周辺の飲食店をご利用いただけますが, 希望者には弁当を用意します。注文には参加申込み用のハガキをご利用下さい。

大会関連の問合せ:

広島大学地域経済システム研究センター

tel: 082-542-6991

E-mail: ml-reweb@hiroshima-u.ac.jp

(メールの件名は「日本地域学会年次大会問合せ」と明記して下さい。)

以上

II. 平成21年度日本地域学会総会 (平成21年10月11日)

日本地域学会 会員 各位

日本地域学会

会長 多和田 眞

本年度総会を下記要領で開催致しますのでご出席下さい。なお, 欠席される場合には同封のハガキにて委任状をご提出下さい。

記

日時: 平成21年10月11日(日)13:00-14:00

場所: 広島大学東広島キャンパス法学部・経済学部講義棟257講義室(会場案内は別掲)

総会次第

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 来賓挨拶 (RSAI 元会長 Prof. Peter NIJKAMP)
4. 議題
 - 1) 新入会員・退会希望者の承認
 - 2) 平成20年度の事業報告の承認
 - 3) 平成21年度の事業計画の承認
 - 4) 平成20年度の収支決算の承認
 - 5) 平成21年度の収支予算の承認
 - 6) 名誉会員の承認
 - 7) 第47回(2010年)年次大会の開催地, 開催校等の承認
 - 8) 第48回(2011年)年次大会の開催地, 開催校等の取扱いの承認
 - 9) 日本地域学会学会賞学位論文賞の件
 - 10) その他
5. 報告
 - 1) 新入会員キャンペーンの継続
 - 2) 『地域学研究(39巻)』の編集
 - 3) RSAIの動向
 - 4) PRSCOの動向
 - 5) その他
6. 学会賞授与式

- 1) 選考経過報告
- 2) 学会賞授与 (受賞者は IV. 委員会報告に別掲)
- 3) 受賞者挨拶
7. その他
8. 閉会の辞

以上

III. 理事会報告

平成 21 年度 第 1 回理事会 (持ち回り)

日 時: 平成 21 年 3 月 6 日 (金)17:00

議 題: 「日本環境共生学会 第 12 回 (2009) 学術大会後援名義使用」の件

上記後援名義使用を許可する件につき審議に付し、承認が得られた。

平成 21 年度 第 2 回理事会

日 時: 平成 21 年 4 月 19 日 (日) 13:00-15:00

場 所: (独) 国立大学財務・経営センター (学術総合センター) 会議室

出席者: 多和田, 細江, 加賀谷, 水鉤, 有吉, 渋澤, 白井, 岡村, 木南, 熊田, 酒井, 戸田, 中山, 萩原, 福井, 藤岡, 光多, 三友, 宮城, 宮田の各理事 (ただし, 浅見, 河野, 近藤, 齊藤, 高橋, 原, 松本の各理事より委任状付託); オブザーバとして鐘ヶ江学術委員会副委員長, 長野前大会実行委員会委員長; 内田, 小林, 水野谷, 櫻井の各幹事; 坂田事務局秘書

1. 新入会員・退会希望者の承認

前回理事会以降, 申し込みのあった 12 名の正会員 (個人会員) の入会と, 29 名の正会員の退会希望を審議し, 1 名を慰留, 28 名の退会を次回総会に諮る事を諒承。

2. 平成 20 年度決算 (案) の審議と承認

水鉤総務担当常任理事より報告と説明があり, 審議の後, 次回総会に諮る事を諒承。

3. 平成 21 年度予算 (案) の審議と承認

水鉤総務担当常任理事より報告と説明があり, 審議の後, 次回総会に諮る事を諒承。

4. 第 46 回年次大会の運営

戸田大会準備委員会委員長より年次大会の運営方針 (募集, 会場案内, 予算案, アブストラクトの Web 化) について説明があり, 審議の後, 詳細については事務局と調

整の上進めることとし, これを諒承。

5. 第 47 回年次大会の開催地及び開催機関

水鉤総務担当常任理事より東京周辺で候補を選定中であることが報告され, 今後の取り扱いについては事務局に一任することを諒承。

6. 日本地域学会監事及び編集委員会幹事選出の件

監事に長野会員を, また, 編集委員に実積寿也会員を各々選出した。

7. 第 18 回学会賞選考委員会報告

酒井学会賞選考委員会委員長より選考結果について説明があり, これを諒承。

8. 名誉会員選考委員会報告

熊田名誉会員選考委員会委員長より選考結果について説明があり, これを諒承。

9. 『地域学研究』セット販売の推進

10. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

11. その他

報告事項

1. 機関誌編集委員会報告

2. 平成 21 年度第 1 回理事会 (持ち回り)

3. RSAI の動向

4. PRSCO の動向

5. その他

平成 21 年度 第 3 回理事会

日 時: 平成 21 年 6 月 28 日 (日) 13:00-15:00

場 所: 東京大学農学部弥生講堂会議室

出席者: 多和田, 細江, 加賀谷, 水鉤, 有吉, 渋澤, 白井, 岡村, 木南, 河野, 酒井, 高橋, 戸田, 富川, 萩原, 福井, 藤岡, 松本, 光多, 三橋, 宮田の各理事 (ただし, 浅見, 近藤, 齊藤, 原, 三友の各理事より委任状付託); オブザーバとして筒井監事, 鐘ヶ江学術委員会副委員長; 内田, 木南章, 小林, 櫻井の各幹事; 坂田事務局秘書

1. 新入会員・退会希望者の承認

前回理事会以降, 申し込みのあった 27 名の正会員 (個人会員) の入会と, 20 名の正会員及び 1 団体の法人会員の退会希望を審議し, 次回総会に諮る事を諒承。

2. 第 46 回年次大会並行セッション及びシンポジウムのプログラム編成

戸田大会準備委員会委員長よりプログラム編成につい

て説明があり、今後のプログラム編成については事務局に一任することを諒承。

3. 第 47 回年次大会の開催地及び開催機関

水鉤総務担当常任理事より東日本に限定して候補を選定中であることが報告され、今後の取り扱いについては引き続き事務局に一任することを諒承。

4. 名誉会員推薦委員会の件

多和田会長より故熊田委員長の後任として、白井会員を名誉会員推薦委員会委員長に推薦する提案があり、これを諒承。

5. 第 18 回学会賞選考委員会の件

酒井学会賞選考委員長より、選考結果について報告があり、これを諒承。

6. 平成 20 年度事業報告、平成 21 年度事業計画及び平成 22 年度事業計画の件

水鉤総務担当常任理事より事業報告及び事業計画について説明があり、次回総会に諮る事を諒承。

7. 『地域学研究』セット販売の推進

8. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

9. その他

報告事項

1. 機関誌編集委員会報告

多和田機関誌編集委員より故熊田編集委員の後任として、加賀屋会員を推薦する報告があり、これを諒承。

2. RSAI の動向

3. PRSCO の動向

4. その他

平成 21 年度 第 4 回理事会 (持ち回り)

日 時: 平成 21 年 7 月 21 日 (火)17:00

議題: シンポジウム「環境流域圏を基にこの国の形を創る～自治体のあり方を流域から発想する～」の後援名義使用の件

上記後援名義使用を許可する件につき審議に付し、承認が得られた。

IV. 委員会報告

1. 学会賞選考委員会

学会賞選考委員会 (委員長 酒井泰弘 滋賀大学 教授) では、慎重な審議の上、下記の会員の方々に平成 21 年度

(第 18 回) 日本地域学会学会賞を授与する事を決定しましたので報告致します。なお、授与式は先にご案内致しました今年度総会で執り行われます。

功績賞:

熊田 禎宣 (千葉商科大学政策情報学部 教授)

論文賞:

木南 莉莉 (新潟大学自然科学系 教授)

主題: 中国の経済成長に伴う食糧消費行動の変化と食糧政策

奨励賞:

小林 慎太郎 ((独) 国際農林水産業研究センター国際開発領域 研究員)

主題: Economic Structure of Cambodia and Strategies for Pro-Poor Growth: Results from a Computable General Equilibrium Analysis

阿久根 優子 ((株) 現代文化研究所 主事研究員)

主題: 国内における食品産業の業種別産業集積要因分析

著作賞:

熊田 禎宣 (千葉商科大学政策情報学部 教授) 他編著 『環境市民による地球環境資源の保全-理論と実践-』

徳永 澄憲 (筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授) 他著 『自動車環境政策のモデル分析-地球温暖化対策としての環境車普及促進政策-』

國光 洋二 (農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所事業評価研究室長) 著

『農村公共事業の経済評価-マイクロデータによる事後評価手法と実践-』

永松 俊雄 (室蘭工業大学 教授) 著

『チッソ支援の政策学-政府金融支援措置の軌跡』

萩原 清子 (佛教大学社会学部 教授) 編

『生活者からみた環境のマネジメント』

学位論文賞:

田中啓一賞 (博士論文賞)

三阪 朋彦 (三阪一級建築士事務所代表)

主題: 都心域における文化集客施設来訪者の回遊行動に関する研究 (名古屋工業大学提出, 平成 19 年 3 月 24 日, 博士 (工学))

中通 健一 ((独) 住宅金融支援機構近畿支店公共業務グループ長)

主題: 住宅における LCCO2 低減手法の最適化と

環境性能の相対評価に関する基礎的研究 (筑波大学提出 平成 21 年 3 月 25 日, 博士 (学術))

山口 高広 (神戸市水道局技術部計画課)

主題: 利他的価値を考慮した社会基盤施設整備評価に関する研究 (関西大学提出 平成 20 年 3 月 31 日, 博士 (工学))

金 少勝 (浙江大学農業与農村発展研究センター 専任講師)

主題: Study on Location Chices of Japanese Food Manufacturers in China (筑波大学提出 平成 20 年 11 月 30 日, 博士 (学術))

高口 鉄平 (総務省総合通信基盤局主査)

主題: 提携戦略の経済分析 -1990 年代以降の電気機械産業に関する実証分析- (九州大学提出 平成 21 年 3 月 24 日, 博士 (経済学))

修士論文賞

中澤 光介 ((株) ライテック)

主題: 水需要を考慮した東三河地域計量経済分析 (豊橋技術科学大学提出 平成 20 年 3 月 21 日, 修士 (工学))

中村 中 ((株) 日立製作所)

主題: 霞ヶ浦における湖内水質の動態を考慮した総合的流域管理政策 (筑波大学提出 平成 19 年 3 月 23 日, 修士 (環境科学))

2. 機関誌編集委員会

第 22 回 機関誌編集委員会

日 時: 平成 21 年 3 月 21 日 (土) 12:30-14:30

場 所: 東京大学農学部一号館 324 号室

出席者: 多和田, 氷鮑, 木谷, 木南 (莉), 洪澤, 細江, 光多, 三友の各編集委員 (ただし有吉, 高橋, 戸田, 藤岡の各委員より委任状付託); 内田, 木南 (章), 小林, 櫻井の各幹事; 坂田事務局秘書

議題:

1) 『地域学研究』第 39 巻掲載候補論文の選考

レフェリー評価に基づき第 39 巻の掲載論文の選考が行われた。

2) 同上機関誌印刷方針

これに関して氷鮑総務担当常任理事・編集総務より, 第 39 巻の発行計画及び印刷状況について報告があった。

3) 同上機関誌書評応募図書取扱い

4) その他

第 23 回機関誌編集委員会

日 時: 平成 21 年 4 月 19 日 (日) 11:00-12:00

場 所: (独) 国立大学財務・経営センター (学術総合センター) 会議室

出席者: 多和田, 氷鮑, 有吉, 木谷, 木南, 熊田, 洪澤, 藤岡, 光多, 三友, 細江, 長野, 戸田の各編集委員 (ただし松本, 齊藤, 高橋, 原の各委員より委任状付託); 内田, 木南 (章), 水野谷, 櫻井の各幹事; 坂田事務局秘書

議題:

1) 『地域学研究』第 39 巻掲載候補論文の選考

レフェリー評価に基づき第 39 巻の掲載論文の選考が行われた。

2) 同上機関誌印刷方針

これに関して氷鮑総務担当常任理事・編集総務より, 第 39 巻の発行計画及び印刷状況について報告があった。

3) 同上機関誌書評欄応募図書取扱い

4) その他

平成 21 年度より会員への機関誌の送付方法を変更する提案がなされ, 審議の結果諒承された (詳細については V. で説明)。

第 24 回 機関誌編集委員会

日 時: 平成 21 年 6 月 28 日 (日) 11:00-12:00

場 所: 東京大学農学部弥生講堂 会議室

出席者: 多和田, 松本, 氷鮑, 有吉, 木南, 洪澤, 高橋, 藤岡, 光多, 戸田の各編集委員 (ただし齊藤, 実積, 原, 三友の各委員より委任状付託); 内田, 木南, 水野谷, 櫻井の各幹事; 坂田事務局秘書

議題:

1) 『地域学研究』第 39 巻掲載候補論文の選考

レフェリー評価に基づき第 39 巻の掲載論文の選考が行われた。

2) 同上機関誌印刷方針

これに関して氷鮑総務担当常任理事・編集総務より, 第 39 巻の発行計画及び印刷状況について報告があった。

3) 同上機関誌書評応募図書取扱い

4) その他

V. 機関誌配布ルールの変更について

これまで会費と機関誌との間の対応関係は, 慣習とし

て下記1.により取り扱ってきました。これを下記2.に変更することになりましたのでお知らせします。

また、変更に伴う経過措置、特例については下記3.及び4.に示す通りとなります。詳しくは学会HP 日本地域学会機関誌の配布に関する規程をご覧ください。

1. 従来のルール

ある年度の会費を納入した会員に対して、その翌年度発行の『地域学研究』を配布する。

2. 変更後(本年度より)

ある年度の会費を納入した会員に対して、当該年度発行の『地域学研究』を配布する。

3. 本年度(平成21年度)の経過措置

昨年度(平成20年度)までに入会した会員に対しては、本年度の会費が未納であっても、昨年度会費が納入されていれば『地域学研究』第39巻を配布する。

4. 退会時の特例

平成20年度以前に入会し、かつ退会する年度までの会費を継続して納入した会員に対しては、申し出があれば翌年1年間『地域学研究』を送付する。

VI. 会員通信

今回の会員通信は、〈海外滞在記〉及び〈研究室便り〉として、北海学園大学工学部社会環境工学科 鈴木聡士准教授に執筆していただきました。

〈海外滞在記〉アムステルダム

北海学園大学工学部社会環境工学科
准教授 鈴木 聡士

私は、2006年9月から2007年9月の一年間、オランダのFree University Amsterdam (Vrije Universiteit Amsterdam)において、客員研究員として研究に従事する機会に恵まれました。

Host professorであるPeter Nijkamp先生と、学科長のPiet Rietveld先生には、私の不確かな英会話にも関わらず、多くのディスカッションの機会や、研究活動における有益なアドバイスを頂きました。

Peter先生は、ご存じの方も多いかと思いますが、RSAIの元会長であり、オランダ内閣顧問やオランダ学術審議会会長など、他にも多くの要職を歴任されています(<http://staff.feweb.vu.nl/pnijkamp/>参照)。

Peter先生の研究室にて
(右がPeter先生、左がPiet先生)

オランダで生活を始めた当初、私はPeter先生に対して、「Professor Nijkamp」とお呼びしていました。しかし、1ヶ月くらい過ぎたある日、「いつまでその呼び方を続ける？次にそう呼んだら、無視するよ。」と言われました。「では、なんとお呼びすればよいのですか？」と聞くと、「Peter以外はダメ。お互いにそのようにファーストネームで呼び合わないということは、仲がよくないということなんだよ」とのこと。しかし、日本の文化ではあり得ないことですから、「がんばってそう呼ぶように努力するから、慣れるまで時間をください」と言ったら、「でも、次にProfessor Nijkampと呼んでも、無視されちゃうんだよ。どうするSoushi?」と、楽しそうに話されていたことを思い出します。それ以来、勇気が必要でしたが「Peter」と呼ぶことに決めました(以降、Peter先生の意向を踏まえ、Peterと記述します)。

このように、多くの要職を歴任されているPeterですが、本当に気さくで、そして温かな先生です。

しかし、あまりにも忙しすぎて、毎日のように世界中を飛び回り、大学に出勤するのは週に1度程度でした。そして、不在にしていた間に届いたE-mailを全て印刷したコピーの束(厚さは常時1cm以上もある)を秘書から受け取り、それと同時にその前に受け取っていたメールのコピーに返信を手書きしたものを秘書に手渡す、ということの繰り返しでした。なので、メールによるコンタクトは、このような方式により全て秘書を経由するので、返信されるまで約1週間かかるということになります。秘書のElfieさん曰く、「Peterのオフィスは飛行機の中」だ

そうです。そして、「まさに彼は Flying Dutchman ね！」と冗談を添えて笑っていました。一見非効率に思われる方法ですが、ノート PC のバッテリーを気にせず、かつネット環境の不確実性を踏まえ、さらにこのように多忙な状況下においては、この方法が一番確実だそうです。

そして、そのような多忙を極めるスケジュールのなかで、運良く研究打合せのアポを取れたとしても、午前7時から15分間だけ、というような状況でした。私の人生において、あれほど忙しい人に出会ったことはありません。

そして、Piet 先生ですが（これも本人の意向を踏まえ、以降 Piet と記述します）、そんな Peter とのコンビネーションは抜群で、お互いを尊敬し合い、支え合いながら、数多くの素晴らしい研究成果を挙げています。

Peter が不在の時には、Piet がディスカッションにつきあってくれます。おそらく、「なんでこんなに英語がメチャメチャな日本人ができてしまったんだろうか…」と呆れられていたに違いありませんが、決して見捨てず、いつも寛容に、そして真摯な態度で接してくれました。

研究テーマは、包絡分析法 (Data Envelopment Analysis) における DFM (Distance Friction Minimization) モデルの提案と都市経営分析への応用についてです。一年間のアムステルダムにおける研究成果を、Peter と Piet との共著で、PRSCO2007, ERS A2007, NARSC2007, ERS A2008

において発表させて頂きました。今振り返ると、最初の3ヶ月は英会話と海外生活に慣れるのが精一杯で、オランダの生活を楽しむ余裕は全くありませんでした。しかし、少しずつ慣れてきて、3ヶ月を過ぎる頃には、妻はオランダ語の食材名をマスターし、かつオランダ語で書かれたネット接続マニュアルを読破して、自宅のインターネット環境整備を成し遂げました。

そして私は、そんな妻に支えてもらいながら、充実した研究活動を行うことができました。Peter と Piet とともに過ごした一年は、私の研究者人生において極めて有益な経験となりました。

<研究室便り> 研究室の歴史と私の使命

北海学園大学工学部社会環境工学科
准教授 鈴木 聡士

私がオランダに滞在を始めて一ヶ月が過ぎた頃、真夜中にいきなり携帯電話が鳴りました。「だれか時差を考えないで日本から掛けてきたんだろう」と、憤りを感じつつ電話に出てみると、「五十嵐先生が亡くなりました」という、信じられないニュースを突然聞かされました。

私と妻の恩師である五十嵐日出夫先生は、2006年10月20日に急逝されました。五十嵐先生は、北海道大学名誉教授であり、日本地域学会の副会長など、要職を数多く歴任されました。

私は、海外滞在中の身分であり、自由な帰国は認められていないことから、最後の最後に恩師と会うことができませんでした。一生の後悔として残り続けると思います。

私が現在預かっている北海学園大学工学部社会環境工学科「都市・地域計画研究室」は、五十嵐先生が北海道大学を定年退官された後、北海学園大学に移られてから新たに創設した研究室です。この研究室は、五十嵐先生が北海学園大学を退職した2002年3月末をもって、残念ながらなくなってしまいました。国立大学とは異なり、各教員個人が独立して研究室を運営している私立大学では、教員の退職とともに研究室が無くなってしまふことが多々あります。

私は帰国後、恩師との出会いの場となった、この母校の研究室を復活させる機会に恵まれました。恩師が、そうさせてくれたのかもしれませんが。

最後の最後に、恩師にお会いできなかった気持ちを糧にして、これからこの研究室を運営し、多くの学生を育てていきたいと思っています。

それが、私にできる恩師への唯一の恩返しなのだと思っています。

(了)

第46回年次大会準備委員会からのお知らせ

【第46回年次大会の会場案内】

●交通●

・JR広島駅から山陽本線上りの普通または快速電車で「西条駅」下車(25分程度)。

JR西条駅前から「広島大学行き」バスで「広大中央口」下車(20分程度)

[西条駅～広島大学間のバスの時刻表]

<http://www.geiyo.co.jp/Unyu/daigaku.htm>

・広島市内中心部の広島バスセンター1番乗り場から「広島大学行き」バスに乗りして「広大中央口」下車(60分程度)

[広島バスセンターからのバスの時刻表]

<http://www.chugoku-jrbus.co.jp/annai/7-1.htm>

●会場●

・会場の「法学部・経済学部棟」は、バス停「広大中央口」のすぐ前です。

・懇親会場は、バス停「広大北口」のすぐ北側です。

[会場隣接地]

西条 HAKUWA ホテル(懇親会場を予定)

[JR西条駅周辺]

東広島グリーンホテルモーリス

東横イン西条駅前

東広島シティホテル

ホテル サンライズ 21

[新幹線東広島駅周辺]

※新幹線東広島駅から会場へのバスは、土日休日には運行しません。ご注意ください。

東横イン東広島

スリープイン東広島

[JR広島駅・新幹線広島駅周辺]

※広島駅から比較的近い主要ホテルとして、以下のようなものがあります。

ホテルグランヴィア広島

ホテルニューヒロデン

ホテル ヴィアイン広島

アークホテル広島

アパホテル広島駅前

ホテルニューセンチュリー 21 広島

広島グランドインテリジェントホテル

広島インテリジェントホテル アネックス

ホテル チューリッヒ

ホテル JAL シティ広島

東横イン広島駅新幹線口

東横イン広島駅南口右

ホテルアクティブ広島

以上

【最寄りの主要ホテルのご案内(順不同)】

※西条は「吟醸酒のふるさと」と呼ばれ、伏見、灘と並ぶ酒どころのひとつです。10月10日～11日には、JR西条駅近くで年1回の「酒まつり」が開催されます。日本酒と地元料理を味わうことができます。